

野村テンプレトン・トータル・リターン Cコース

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

第98期(決算日2019年12月13日) 第99期(決算日2020年1月14日) 第100期(決算日2020年2月13日)
第101期(決算日2020年3月13日) 第102期(決算日2020年4月13日) 第103期(決算日2020年5月13日)

作成対象期間(2019年11月14日～2020年5月13日)

第103期末(2020年5月13日)	
基準価額	8,442円
純資産総額	700百万円
第98期～第103期	
騰落率	△ 5.2%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、FTIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン・ファンドのClass I (Mdis) JPY-H1 (以下「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。)およびFTSIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン SIFのI (Mdis) JPY-H1 (以下「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。)の円建ての外国投資証券ならびに野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等(現地通貨建てを含みます。)に実質的に投資を行い、インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

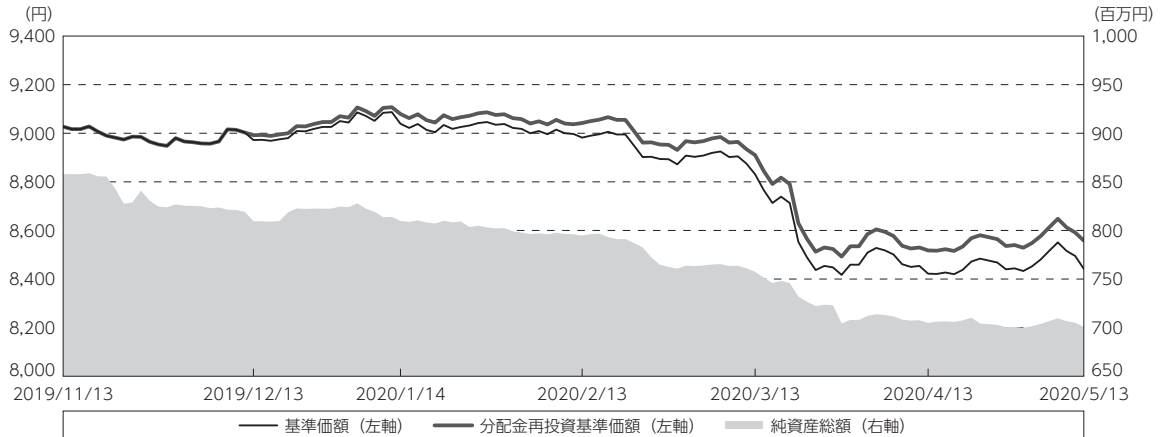


ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2019年11月14日～2020年5月13日)



第98期首：9,027円

第103期末：8,442円 (既払分配金(税込み)：120円)

騰落率：△ 5.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2019年11月13日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

- ・実質的に投資している新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等からのインカムゲイン(利息収入)
- ・実質的に投資している新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等からのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)
- ・実質的に投資している先進国通貨、新興国通貨の対米ドルでのキャピタルゲイン(またはロス)
- ・米ドル売り・円買いの為替予約取引等による為替ヘッジ・コスト

1万口当たりの費用明細

(2019年11月14日～2020年5月13日)

項 目	第98期～第103期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 46	% 0.525	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(a) (a) (投信会社)	(18)	(0.208)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(a) (a) (販売会社)	(26)	(0.301)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(a) (a) (受託会社)	(1)	(0.016)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(b) (b) (監査費用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	46	0.526	
作成期間の平均基準価額は、8,803円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

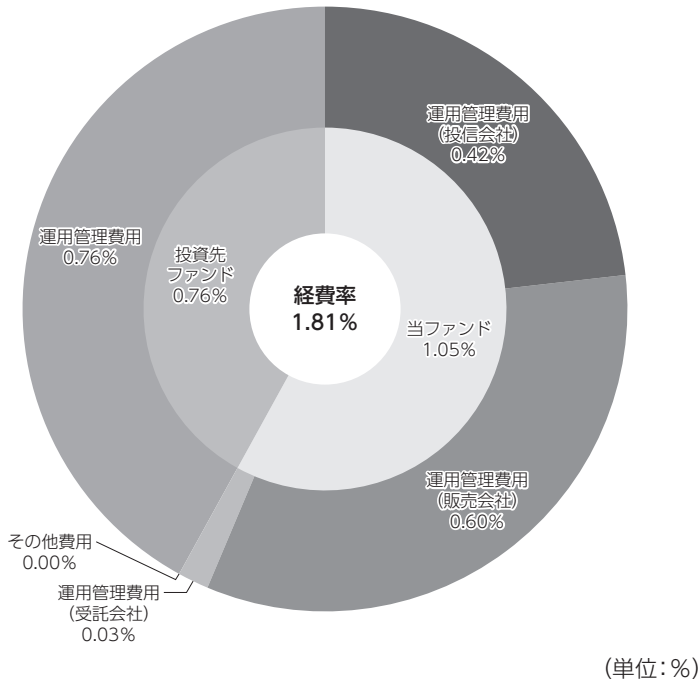
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.81%です。



経費率 (①+②)	1.81
①当ファンドの費用の比率	1.05
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.76

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

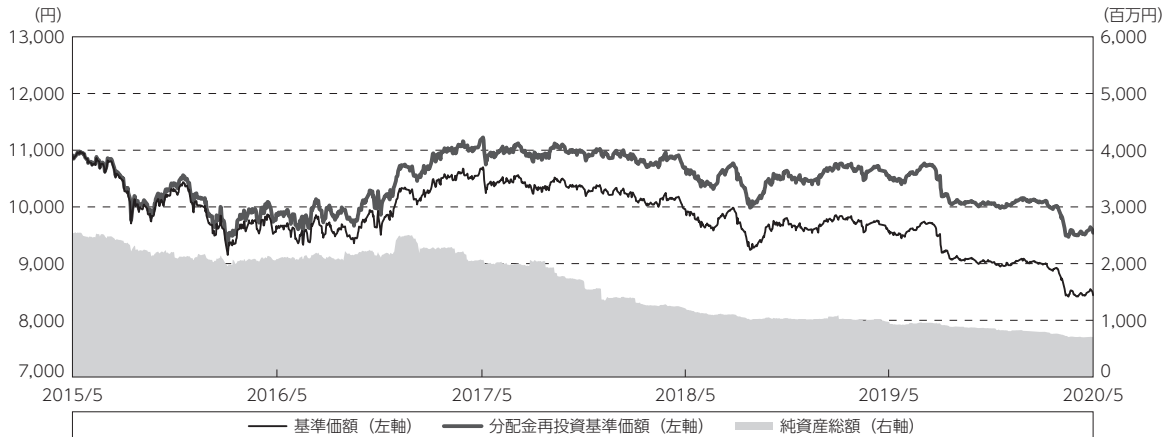
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年5月13日～2020年5月13日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2015年5月13日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年5月13日 決算日	2016年5月13日 決算日	2017年5月15日 決算日	2018年5月14日 決算日	2019年5月13日 決算日	2020年5月13日 決算日
基準価額 (円)	10,912	9,613	10,681	9,961	9,559	8,442
期間分配金合計(税込み) (円)	—	240	240	240	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 9.8	13.8	△ 4.5	△ 1.6	△ 9.3
純資産総額 (百万円)	2,550	2,076	2,062	1,209	969	700

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2019年11月14日～2020年5月13日)

【債券市場】

債券市場では、米国10年国債利回りは当作成期間で低下（価格は上昇）しました。

当作成期の前半は、米国経済が良好な状態にあるなか、米中間の通商交渉に進展が見られたことなどが好感され、利回りが上昇する局面もありましたが、後半は中国で発生した新型肺炎の感染が世界的に拡大するにつれ、世界経済への懸念が高まり、利回りは大きく低下しました。利回りの低下は2020年2月下旬から顕著となり、3月には米国10年国債利回りが1%を下回りました。

米国においては、当作成期の前半は良好な経済状態を背景としてそれまでの金融政策が維持された一方で、当作成期の後半においては新型肺炎の感染拡大を背景として大規模な金融・財政政策が実施されました。

欧州では、2019年11月にラガルド欧州中央銀行（ECB）新総裁が就任し、ドラギ前総裁による政策を基本的に引き継ぎました。既に決定していた量的緩和政策が11月より再開されました。

また新興国を含む多くの国においても経済危機に対応するための利下げが実施されました。

【為替市場】

米ドルの対円相場は、当作成期間において、円高ドル安となりました。

当作成期首から2020年2月中旬にかけては概ねレンジ内での展開となりましたが、2月下旬以降は新型肺炎の感染拡大が世界に広がる中、世界的な株安とともにリスク回避の動きが強まったことに加え、米連邦準備制度理事会（FRB）が緊急利下げを実施したことなどから円買いドル売りが進み、3月上旬にかけて円高ドル安が進行しました。その後円安ドル高となる局面もありましたが、当作成期間においては円高ドル安となりました。

ユーロの対円相場は、当作成期間において、円高ユーロ安となりました。

また、新興国通貨も概ね米ドル、円双方に対して軟調な展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年11月14日～2020年5月13日)

【野村テンプレートン・トータル・リターン Cコース】

【野村テンプレートン・トータル・リターン Cコース】は、当作成期を通して、主要投資対象である [FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド Class I (Mdis) JPY-H1] および [FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF I (Mdis) JPY-H1] (以下、各証券を「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。) を概ね高位に組み入れ、【野村マネー マザーファンド】 受益証券への投資も行ないました。

【FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス】

＜デュレーション＞

デュレーション (金利感応度)*は、2020年3月末で、1.6年程度としました。

*デュレーション：金利がある一定の割合で変動した場合、債券・資産の価格がどの程度変化するかを示す指標です。この値が大きいほど金利変動に対する債券・資産価格の変動率が大きくなり、またこの値が小さいほど金利変動に対する債券・資産価格の変動率が小さくなります。

＜国・地域別配分＞

主な国・地域別配分については、2020年3月末で、日本29.1%、メキシコ13.8%、韓国9.2%などとなりました。

＜通貨別配分＞

主な通貨別配分については、2020年3月末で、円、米ドル、ノルウェークロネなどを買建てとしました。一方で、ユーロ、豪ドルを売建てとしました。

＜信用格付別構成＞

信用格付別構成については、2020年3月末で、投資適格69.3%、非投資適格15.4%、その他15.3%としました。

＜債券種別構成＞

債券種別構成については、2020年3月末で、国債等84.7%、社債0.0%、その他15.3%としました。

【FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラス】

＜デュレーション＞

デュレーション (金利感応度) は、2020年3月末で、1.5年程度としました。

＜国・地域別配分＞

主な国・地域別配分については、2020年3月末で、日本25.2%、米国10.7%、ブラジル8.3%などとなりました。

<通貨別配分>

主な通貨別配分については、2020年3月末で、米ドル、円、ノルウェークローネなどを買い建てとしました。一方で、ユーロ、豪ドルなどを売り建てとしました。

<信用格付別構成>

信用格付別構成については、2020年3月末で、投資適格59.1%、非投資適格11.7%、その他29.2%としました。

<債券種別構成>

債券種別構成については、2020年3月末で、国債等70.8%、社債0.0%、その他29.2%としました。

なお、「FTIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン・ファンドJPY限定為替ヘッジ・クラス」〔FTSIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラス〕において、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替予約取引等により、対円での為替ヘッジを行ないました。

[野村マネー マザーファンド]

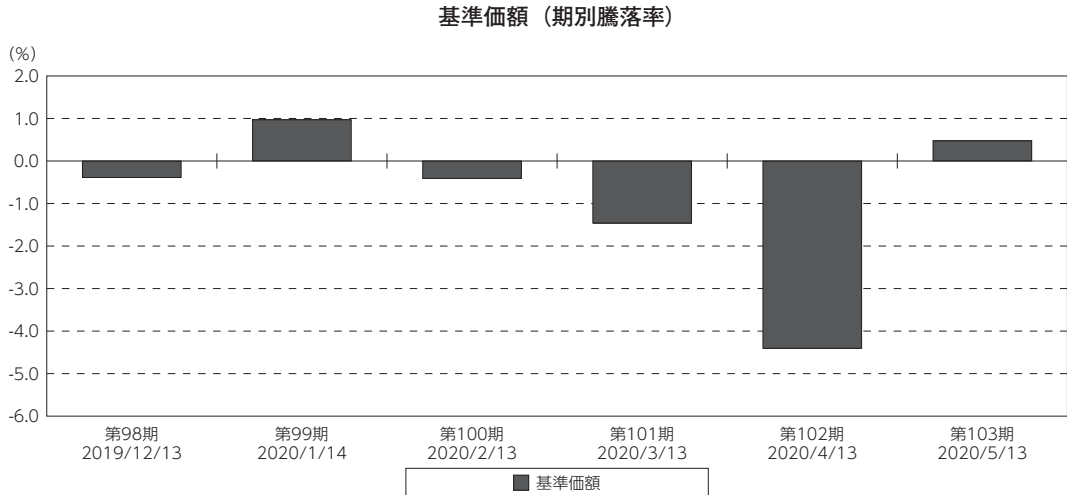
残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図りました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年11月14日～2020年5月13日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2019年11月14日～2020年5月13日)

収益分配金については、各期の利子・配当収入や基準価額水準等を勘案し、信託報酬などの諸経費を差し引いた額をベースに決定しました。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
	2019年11月14日～ 2019年12月13日	2019年12月14日～ 2020年1月14日	2020年1月15日～ 2020年2月13日	2020年2月14日～ 2020年3月13日	2020年3月14日～ 2020年4月13日	2020年4月14日～ 2020年5月13日
当期分配金 (対基準価額比率)	20 0.222%	20 0.221%	20 0.222%	20 0.226%	20 0.237%	20 0.236%
当期の収益	20	20	20	20	19	15
当期の収益以外	—	—	—	—	0	4
翌期繰越分配対象額	3,764	3,785	3,799	3,809	3,809	3,805

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[野村テンプレートン・トータル・リターン Cコース]

ファンドの商品性に従い [FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY 限定為替ヘッジ・クラス] および [FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY 限定為替ヘッジ・クラス] への投資比率を、引き続き高位に維持する方針です。

[FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY 限定為替ヘッジ・クラス] [FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY 限定為替ヘッジ・クラス]

新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等（現地通貨建てを含みます。）を主要投資対象とし、インカムゲイン、キャピタルゲインおよび通貨の利益を総合した、米ドルベースでのトータルリターンの最大化をめざして運用を行ないます。また、ポートフォリオの通貨配分にかかわらず、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り・円買いの為替予約取引等により、対円での為替ヘッジを行ないます。

・投資環境

依然として、世界は新型コロナウイルスによる経済的な影響を受け始めた段階にいたることから、ポートフォリオでリスクを積み増すには時期尚早であると考えます。現在は、安全な投資先と呼ばれる特定の資産に注目している一方、利回りの高い新興国において相対的に堅調な国内経済を有している国への選別的な投資を行っています。低金利やマイナス金利の先進国債券利回りは、今後も歴史的な低水準を維持することが見込まれ（価格の）上昇幅が限定的であると考え、リターンの源泉は別の手段で獲得する方針です。

ポートフォリオでは、脆弱な資産クラス価格との相関を低める一方、相対的に高いインカムの獲得と元本の確保を目指しています。また、キャッシュおよび流動性の高い米国短期国債のポジションを積み上げることで、今後投資機会が訪れた際に迅速に対応できるようにしています。2008年の世界金融危機の際にも、危機のピークに向けてディフェンシブなスタンスを採り、その後徐々に市場が回復する初期局面において、大幅に価格が下落し魅力的と判断する投資機会に資金をシフトさせました。

市場の一部では、世界金融危機以降のようなV字回復を期待する向きがありますが、その可能性はあるものの低いと考えます。運用チームでは緩やかなU字回復を予想していますが、そのUの字がどの程度の期間になるのか、足元ではまだ不透明です。依然として、感染拡大がいつまで継続するのか、どの程度の影響があるのか、ロックダウンはいつまで続くのか、などについて予想は困難な状況です。

また、失業者の増加、景気的大幅な落ち込み、過去に見ない財政の投入を経て、事態が収束した先にどのような世界・社会が訪れるのかについても不透明です。米国内での経済的格差の拡大は、今回の危機以前の段階で失業率が低水準（3.5%）であった時からすでに社会的対立の原因となっていました。急速な景気悪化により、この問題がさらに悪化するものと考えます。人々が共に困難に立ち向かっていくのか、あるいはさらに二極化が進むのかについて注視する必要があります。

さらに、財政赤字が莫大な水準にまで拡大する中、政府が今回の大規模な支援プログラムに必要な資金をどのように賄っていくかについても不透明です。現代貨幣理論や財政ファイナンスといった反主流の政策が注目を集めるかもしれません。また、世界経済および日常生活において大幅な構造的変化が生じる可能性があります。これら全ての懸念などを受けて、新型コロナウイルス感染収束後の金融市場は形作られるでしょう。

新型コロナウイルス感染拡大前の世界がすでに不安定な状況であったということが、現在の危機的状況をさらに複雑なものとしています。具体的には、地政学的リスクの高まり、貿易摩擦、政治の二極化、先進国における際限のない財政赤字、主要国における低金利環境の継続、そして割高なクレジットセクターなどといった要素が、経済あるいは金融ショックに脆弱な環境を創り出したと言えます。運用チームでは過去数四半期にわたりこれらのリスクに懸念を抱いており、ポートフォリオでは2019年より安全資産を積み増す一方、様々な新興国市場におけるリスクエクスポージャーの調整を行ってきました。

・投資戦略

全体として、ポートフォリオのデュレーションを短めに維持します。2020年3月に、イールドカーブのスティープ化を受け、米国債に対するマイナスデュレーションのポジションを解消し、現在は流動性および利回りの観点から米国債の短期ゾーンを選好しています。また、強固なファンダメンタルズを有し魅力的なリスク調整後の利回りを有する国の通貨を選別的に保有しています。一方、それらのリスクに対し、円やスイスフランといった安全資産と考える通貨を持つことでポートフォリオ全体のリスクを調整しています。また、新興国通貨全般のリスクに対するヘッジとして豪ドルを売り建てていることに加え、インドルピー、韓国ウォン、メキシコペソについては各々為替ヘッジを行っています。また、大幅に割高となっていると考えるクレジット市場への投資は回避しています。全体として、割高で今も継続する経済への影響に対して脆弱な資産クラスを回避し、ポートフォリオを分散させてリスクの低減を図っていく方針です。

[野村マネー マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。

日本銀行によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

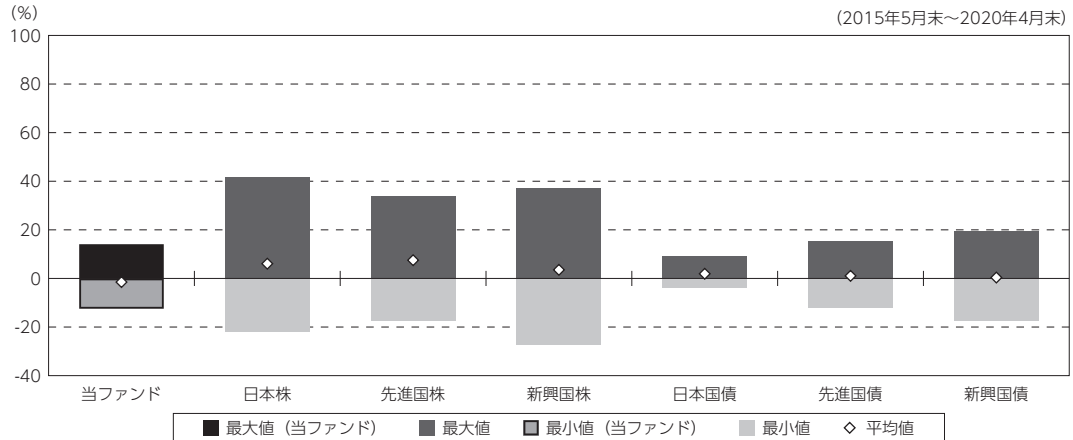
商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2011年8月11日から2031年5月13日までです。	
運用方針	外国投資法人であるFTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンドのClass I (Mdis) JPY-H1 (以下「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。)およびFTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIFのI (Mdis) JPY-H1 (以下「JPY限定為替ヘッジ・クラス」といいます。)の円建ての外国投資証券ならびに円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。各証券への投資比率は、通常の場合においては、FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラスおよびFTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラスの外国投資証券への投資を中心としますが、特に制限は設けず、各証券の収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。	
主要投資対象	野村テンプレートン・トータル・リターン Cコース	FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラスおよびFTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラスの円建ての外国投資証券ならびに野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラス	新興国を含む世界各国の固定利付および変動利付の債券（国債、政府機関債、社債等。現地通貨建てを含みます。）を主要投資対象とします。
	FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラス	新興国を含む世界各国の固定利付および変動利付の債券（国債、政府機関債、社債等。現地通貨建てを含みます。）を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY限定為替ヘッジ・クラスおよびFTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラスの円建ての外国投資証券ならびに野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として新興国を含む世界各国の国債、政府機関債、社債等（現地通貨建てを含みます。）に実質的に投資を行い、インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。	
分配方針	毎決算時に、原則として利子・配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。なお、毎年5月と11月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、安定分配相当額に委託者が決定する額を付加して分配する場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響をうけ、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	14.1	41.9	34.1	37.2	9.3	15.3	19.3
最小値	△ 12.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 1.5	6.1	7.5	3.5	1.9	1.1	0.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年5月から2020年4月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

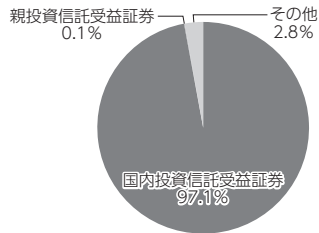
組入資産の内容

(2020年5月13日現在)

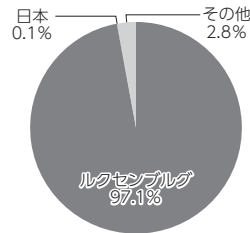
○組入上位ファンド

銘柄名	第103期末
	%
FTSIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY 限定為替ヘッジ・クラス	95.0
FTIF - テンプレトン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY 限定為替ヘッジ・クラス	2.1
野村マネー マザーファンド	0.1
組入銘柄数	3銘柄

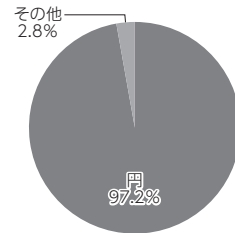
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第98期末	第99期末	第100期末	第101期末	第102期末	第103期末
	2019年12月13日	2020年1月14日	2020年2月13日	2020年3月13日	2020年4月13日	2020年5月13日
純資産総額	809,467,437円	809,754,433円	794,803,185円	757,367,629円	704,934,856円	700,790,838円
受益権総口数	902,248,317口	895,797,258口	884,854,663口	857,588,517口	837,042,542口	830,080,246口
1万口当たり基準価額	8,972円	9,039円	8,982円	8,831円	8,422円	8,442円

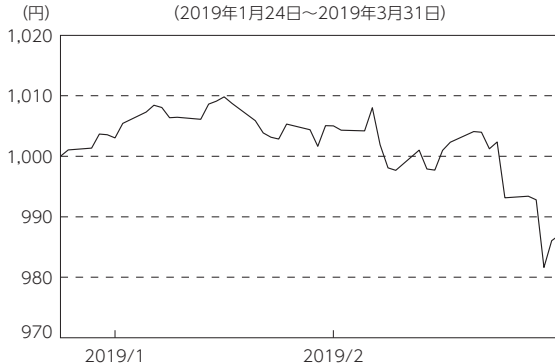
(注) 当作成期間中(第98期~第103期)における追加設定元本額は36,171,238円、同解約元本額は156,631,354円です。

組入上位ファンドの概要

FTSIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン SIF JPY限定為替ヘッジ・クラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月24日～2019年3月31日)

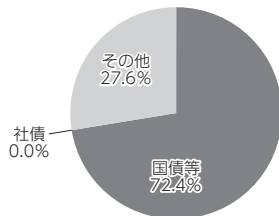
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

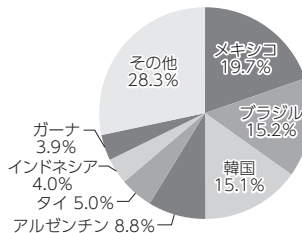
(2019年3月31日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	ブラジル国債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	6.8
2	メキシコ国債	国債等	メキシコペソ	メキシコ	3.9
3	韓国通貨安定証券	国債等	韓国ウォン	韓国	3.8
4	ブラジル国債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	3.8
5	タイ中央銀行債	国債等	タイバーツ	タイ	3.4
6	韓国通貨安定証券	国債等	韓国ウォン	韓国	3.1
7	韓国国債	国債等	韓国ウォン	韓国	3.1
8	アルゼンチン短期国債 割引債	国債等	アルゼンチンペソ	アルゼンチン	3.1
9	ブラジル国債 割引債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	3.0
10	韓国国債	国債等	韓国ウォン	韓国	2.6
	組入銘柄数		30銘柄		

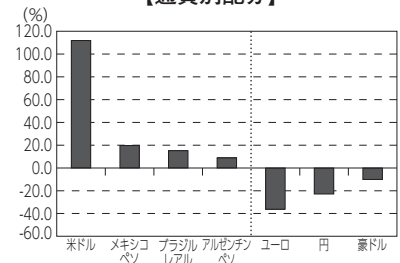
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

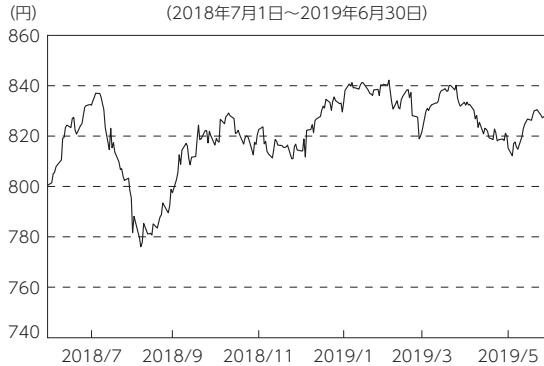


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
(注) 通貨別配分は、ロング (買い建て) 上位4通貨、ショート (売り建て) 上位3通貨を表示しています。

FTIF - テンプレートン・グローバル・トータル・リターン・ファンド JPY 限定為替ヘッジ・クラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2018年7月1日～2019年6月30日)

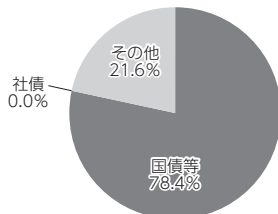
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

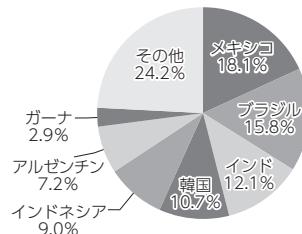
(2019年6月30日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	韓国国債	国債等	韓国ウォン	韓国	4.3
2	ブラジル国債 割引債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	3.9
3	インド国債	国債等	インドルピー	インド	3.1
4	メキシコ国債	国債等	メキシコペソ	メキシコ	3.0
5	ブラジル国債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	3.0
6	ブラジル国債 割引債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	2.4
7	ブラジル国債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	2.3
8	メキシコ国債	国債等	メキシコペソ	メキシコ	2.2
9	ブラジル国債	国債等	ブラジルレアル	ブラジル	2.1
10	メキシコ国債	国債等	メキシコペソ	メキシコ	2.1
	組入銘柄数		119銘柄		

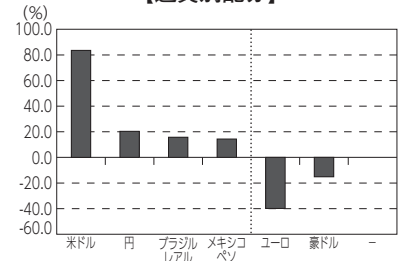
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



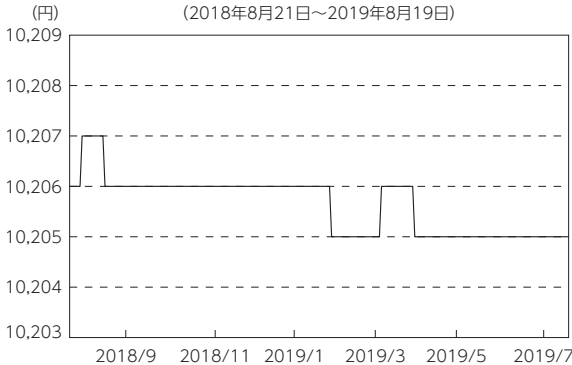
- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
(注) 通貨別配分は、ロング (買い建て) 上位4通貨、ショート (売り建て) 上位3通貨を表示しています。

野村マネー マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2018年8月21日～2019年8月19日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年8月21日～2019年8月19日)

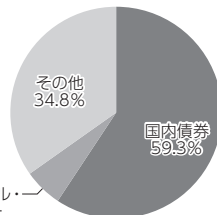
該当事項はございません。

【組入上位 10 銘柄】

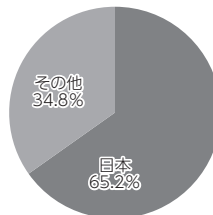
(2019年8月19日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	東海旅客鉄道 第16回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	7.1
2	北海道電力 第319回	社債	円	日本	6.5
3	三菱東京UFJ銀行 第110回特定社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	4.7
4	日本高速道路保有・債務返済機構債券 財投機関債第53回	特殊債	円	日本	4.7
5	中部電力 第492回	社債	円	日本	4.1
6	商工債券 利付第771回い号	金融債	円	日本	4.1
7	東京急行電鉄 第69回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
8	三菱UFJリース 第26回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
9	電源開発 第28回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	2.4
10	ミツイスミトモF&L	コマーシャル・ペーパー	円	日本	2.4
組入銘柄数			29銘柄		

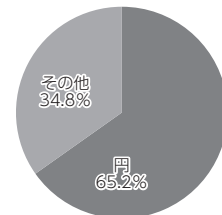
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)

<お申し込み時の留意点>

販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。

(2020年5月13日現在)

年 月	日
2020年 5月	21、25
6月	1、23
7月	3
8月	—
9月	7
10月	—
11月	26
12月	24、25

※ 2020年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご留意下さい。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。